

# 科技高 いきもの記

Vol.63 2022.10.12

生物教員 佐藤龍平

## 怪獣のモデルにもなったヘンテコ顔 ミツカドコオロギ

ミツカドコオロギは、見ての通り超ヘンテコな顔をしている。体は普通のコオロギと同じなのだが、正面から見ると頬のあたりが横に大きく張り出し、おでこもあわせて“ミツカド”を作っている。

いきもの記Vol.60でグンバイムシを紹介したとき、生物が持つ“かたち”にどのような“意味”があるのかを考えると面白いという話をした。ミツカドコオロギのこの顔も、意味が全く分からない不思議な“かたち”の一つだ。横に張り出した顔はオスだけの特徴なので、オス同士の争いに使われるのかもしれないが、なぜこんな形になったのかはよく分からない。どう考えても視界の邪魔になっている気がしてならない。以前、リュックをから

だの前側に持って階段を下りた時に、足を踏み外して思い切りずっこけたことがある。ミツカドコオロギは前方下側が見えなくても生活に支障はないのだろうか。

ちなみに、ウルトラマン好きのM先生なら知っていそうだが、ウルトラセブン第18話に登場する、擬似空間を作り出す怪獣「ベル星人」の顔は、このミツカドコオロギをモチーフにしているらしい。確かに、頬のあたりから横に広がった顔がとてもよく似ている（ただ、ベル星人の名前は鈴 (bell) にちなんでいそうだから、コオロギというよりスズムシ (鈴虫) の怪獣なのか?)。

アニメやゲームなどに登場する珍妙なモンスターたちは大抵、実在するモデルの生物がいるが（黄色い電気ネズミやカエルの軍曹などなど。そういえば最近のポケモンでは、テッポウウオが進化してタコになるのだそう。そんなばかな…）、それにしても、まさかミツカドコオロギの怪獣がいるとは思わなかった。それほどまでにインパクトのある顔なのだろう。

ますますミツカドコオロギの顔の突起の役割が知りたくなった。役割を調べるためにオス同士が戦っているところを見てみたいのだが、鳴き声は聞こえてくるのにいくら探しても姿が見つからない。なぜだ。もしや本当にベル星人のように擬似空間を作って潜んでいるのか?! そう考え始めたら、なんだか草むらから聞こえてくる虫たちの鳴き声が、人間をあざ笑う笑い声のように聞こえてきた。地球の平和を守るため、私は今日も猿江公園の草むらをパトロールしに行かなければならない。



横から見ると、突起のすぐ後ろに眼があることが分かる。突起のせいで前方下側はほとんど見えないのではないだろうか。どう考えても邪魔だ…。もし人間にこれがあったら間違いなく下りの階段を踏み外すだろう。



上) 正面から見たミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi* のオスの顔。顔面が真っ平らで、横に張り出している。ヘンテコな見た目。オス同士は顔を突き合わせて争うので、ケンカのために必要なかもしれないが、なぜこのコオロギだけこの形に進化したのかは不明。ちなみにメスにはこの突起は無い。



右) 真上から見たミツカドコオロギのオス。頭部以外は普通のコオロギと変わらない。珍しい種類なのではなく、どこにでもいる。でも草むらに隠れているとなかなか見つけれられない。